



今年も残す所1ヶ月。皆様におかれまして、良いお年となります様に。新年は1月4日(月)から診療致します。

【嚥下障害と誤嚥性肺炎について】

私たちは、普段何げなく食べ物を食べ、飲み物をのみ込んでいます。しかし、この動作には多くの筋肉の動きやその指令を出す脳の動きが必要となります。この動作が正しく行えなくなった状態を嚥下障害（えんげしょうがい）といい、これによって食べ物や飲み物だけでなく、唾液（だえき）や分泌物がのどから食道に送られずに誤って気管や気管支内に落ち込んでしまうことを誤嚥（ごえん）といいます。



誤嚥性肺炎とは、誤嚥によって細菌が食べ物、唾液、胃液などといっしょに肺に流れ込んで生じる肺炎のことを指します。2011年には、肺炎が日本人の死亡原因の第3位となり、脳血管疾患にとって代わりました。今後ますます高齢化が進む中で、高齢者の肺炎に対しては、治療ではなくその予防が大切となります。それには、嚥下障害や誤嚥などのサインを見逃さないことです。

誤嚥性肺炎を発症する前後には、発熱、せき、喀痰（かたん）などの一般的な肺炎の症状は訴えずに、何となく元気がない、倦怠（けんたい）感を訴えることがあります。他には、食事中のむせ込みやのどのごろつき、食後のむかつき症状がある、食事に時間がかかるなども疑わしい症状です。本人だけでなく、周囲も注意を払う必要があります。誤嚥を起こす嚥下障害を調べるのに次のような検査があります。

【検査の紹介1：VE検査】

鼻から約3mmの内視鏡（カメラ）を挿入し検査を行います。持ち運びができるためご自宅でも検査ができます。唾液や喀痰の貯留の有無、食物を飲み込んだ後の咽頭内への食物の残留の有無や気管へ流入（誤嚥）などを評価することができます。また、嚥下に影響を与えることのある声帯の動きも評価することができます。



【検査の紹介2：VF検査】

エックス線を用いて食物の飲み込みの様子を観察するもので、嚥下時の食塊の通過の状態、喉頭、咽頭への貯留の有無、誤嚥（ごえん）の有無を確認することができます。嚥下障害がどの部位の障害で起こっているのか、どのような食べ物であれば安全に食べることができるか、またどのような姿勢で食べれば安全に食べることができるかを評価することができます。木戸病院や新潟大学医歯学総合病院でこの検査を受けることができます。



最近食べ物がむせるなど、飲み込みに不安がある方、そういうご家族のいる方、遠慮なくスタッフまでご相談ください。

* * * DECEMBER 12 2015 * * *						
日	月	火	水	木	金	土
29	30	1	2 休診	3	4	5 17時まで
6	7	8	9 休診	10 午後3時半～	11	12 17時まで
13	14	15	16 休診	17	18	19 17時まで
20	21	22	23	24	25	26 17時まで
27	28	29	30 休診	31 休診	1 休診	2 休診

(c)KF STUDIO